

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1 基本情報	
(1) 案件名	クラチェ州における小児外科診療体制強化事業
(2) 事業地	カンボジア王国 クラチェ州
(3) 贈与契約締結日 及び事業期間	・ 贈与契約締結日：2022年01月19日 ・ 事業期間：2022年02月01日～2023年01月31日
(4) 供与限度額 及び実績（返還額）	・ 供与限度額：125,012米ドル ・ 総支出：119,684.30米ドル（返還額：5,327.70米ドル）
(5) 団体名・連絡先、事 業担当者名	ア 団体名：公益財団法人 国際開発救援財団 【法人番号：1010005015999】 イ 電話：03-5282-5211 ウ FAX：03-3294-2525 エ E-mail：kazuhiko.tsunoda@fidr.or.jp オ 事業担当者名：角田 和広
(6) 事業変更の有無	ア 事業変更承認の有無： （ア） 申請日：2023年01月05日 承認日：2023年01月13日 内容：本邦医療機関視察研修の中止 イ 事業変更報告の有無： （ア） 報告日：2023年01月30日 内容：州外研修への参加回数の減少に伴う、参加者の減少 （イ） 報告日：2023年01月30日 内容：スタッフ変更報告書 （ウ） 報告日：2023年04月28日 内容：活動回数の増加 （エ） 報告日：2023年04月28日 内容：本部担当者の派遣中止

2 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標 の達成度 (今期事業達成目標)

プロジェクト目標：クラチェ州病院を拠点に州内の小児の外科患者を適切に対応できる診療体制の基盤が確立する。

今期の目標：建設された外科病棟の活用を軸として診療環境が改善し、患者への医療サービスの質が向上する。

カンボジア北東部に位置するクラチェ州での小児外科診療体制の構築を目指す3か年にわたる事業を通じて、①クラチェ州病院（以下、州病院）の小児外科診療の質を向上する活動、②クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動、③住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動を行ってきた。当財団が20年間にわたる支援で育成してきた国立小児病院（以下、NPH）のカンボジア人職員がリーダーシップを発揮し、州病院への技術的な教育からプロジェクトの運営委員会として助言を行ってきた。州病院の診療環境が改善され、事業前は限定的だった小児外科患者の外傷治療や1歳未満の子どもの手術への対応が可能になり、また職員が患者教育や住民への啓発活動にも積極的に関与するなど、医療サービスの質の向上に繋がった。さらに州病院と州内の下位医療機関（保健センター、保健ポスト）との連携が強化され、迅速かつ適切な対応ができる診療体制の基盤が構築された。このことから、今期の目標を概ね達成できたと考える。

活動の主な成果は以下の通りである。

① クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動

手術棟の器材整備や新外科病棟の建設、職員への技術指導を通じて、州病院における小児外科診療の質は格段に向上した。配備した手術器材や新病棟の維持管理は、クラチェ州保健局、州病院などによって適切に行われ、日々の診療業務に活用されている。新外科病棟への移転は患者の入院環境の改善に大きく寄与した。また新外科病棟と手術棟が近くなり、職員間のコミュニケーションが改善されたために、部署間の連携が強化される結果にも繋がった。

州病院職員を対象として、NPH職員による指導や、地方病院の中でも高い質の医療を提供するバタンバン州病院での視察研修が行われた。その結果、州病院外科での診療サービス、チーム医療、患者カルテ記録の改善に自発的に取り組むようになった。また外科医の技能も向上し、難易度が高い1歳未満の子どもの手術が安定的に行われていることや、若手外科医の成長が著しく執刀医を任せられる症例が年々増えていることから州病院の外科診療の質は確実に上がった。

② クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動

州病院を中心に、クラチェ州保健局、保健行政区、対象保健センター（12か所）との搬送体制を強化するべく、活動の計画策定、モニタリング、小児外科疾患の症状や搬送システムについての座学研修を行ってきた。保健センター職員は小児外科疾患の症状について知識を習得し、外科治療が必要な小児患者の症状を識別できるようになった。

しかし、搬送強化の活動が活発に行われるべきであった事業2年次において、新型コロナウイルスによる活動制限があったことから、保健センター職員に対する研修やモニタリングの機会が減少したことで、今期の実績に影響を与えることになった。また保健センターでのデータ管理には課題が多く、搬送件数を正確に把握できない状況が生じた。上位医療機関での対応が必要な患者が滞りなく搬送され、適切な治療を受けるためには、今後も州内の各医療機関の連携強化を図るとともに、各医療機関でのデータ管理を確実にしなければならないことが認められた。

	<p>③ 住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動</p> <p>州病院にて外科の入院患者に対する保健・医療に関する情報提供や、ラジオ、SNS、動画サイトを通じて、小児外科疾患の症状、保健センターや州病院で受診可能な外科診療に関する情報提供を行うことで、入院患者や遠隔地に住む住民に対して継続的な情報を提供できるようになった。特にラジオ出演中（SNSにてライブ配信）は、視聴者から健康不安に対する多くの電話が寄せられることから、医療従事者による情報提供のニーズが高いことがわかり、継続的に行ってきた。外科でのこのような活動がモデルとなり、今年度からは他科でも患者教育が行われるようになった。州病院の医師・看護師、保健センター長らがこのような啓発活動に関心を持って発信する姿が定着してきたことは事業開始前と比べると大きな進展である。</p>
<p>(2) 活動内容</p>	<p>1. クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動</p> <p>1-1. クラチェ州病院職員の知識の向上</p> <p>1-1-1 NPH 職員の指導による研修（実施 3 回/目標 2 回）</p> <p>NPH 職員を講師として招聘し、州病院職員を対象とする座学研修や症例検討、チーム医療の実践を促す OJT を下記の通り行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ NPH 外科看護師チャンタ氏が、「牽引療法（骨折の治療方法）」をテーマに講義（オンライン）を行った。（3 月 17 日） ◆ NPH 小児外科医ヴティ医師、麻酔科医ソカー医師、外科看護師チャンタ氏が、入院患者の回診（OJT）、症例検討と「手術時の低体温の予防」「出産時の出血」「頭部外傷の処置と牽引療法」をテーマに講義を行った。（7 月 14 日～15 日） ◆ NPH 耳鼻咽喉科ヴァンナ医師、外科医ホー医師、麻酔科医ソカー医師が、入院患者の回診（OJT）、症例検討と「外科患者の栄養管理」「術前・術後の管理」「小児耳鼻咽喉科の主な疾患、治療方法」「気道確保困難症例の管理」「創傷部のドレッシング」「手術室での感染管理」「手術室退室前の患者の状態を評価する Aldrete スコア」をテーマに講義を行った。（1 月 25 日～26 日） <p>1-1-2 院内研修（実施 20 回/目標 12 回、うち自己資金 8 回）</p> <p>州病院職員を対象とする日常業務の改善を目的とした研修を下記の通り行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「火傷患者のケア」「大規模手術の手術器材準備」「器材の消毒方法」「麻酔覚醒後の患者の確認」「呼吸器障害をもつ患者への麻酔技術」「入院患者のカルテ記録」「手術室、麻酔、器具の準備」「NPH での看護研修の報告会」「小児患者の気管挿管」「術後患者のフォローアップ」「処置器材の滅菌方法」「応急処置 ABCD」というテーマで実施され、累計 100 名の職員が参加した。（2 月 22 日～8 月 24 日） <p>1-1-3 国内学会への参加（参加 1 回/目標 1 回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 11 月 25 日に開催された第 27 回外科学会（第 15 回小児外科学会）への若手外科医 1 名の参加を支援した。 <p>1-1-4 州外研修（参加者 4 人/目標 16 人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ カンボジア理学療法協会主催の「リハビリテーションセミナー」（カンボジア医科大学にて開催）に外科看護師 2 名の参加を支援した。（5 月 13 日） ◆ 安全な麻酔処置の手順を再学習する「SAFE 小児麻酔コース」への麻酔看護師 2 名の参加を支援した。（11 月 18 日～19 日） <p>1-1-5 国内医療施設の視察研修（実施 1 回/目標 1 回）</p>

- ◆ 診療現場やチーム医療のあり方を学ぶために、バタンバン州病院の外科および小児科の視察研修を行った。(9月16日)

1-2. 病院マネジメントの強化

1-2-1 統計データ収集 (実施12か所/目標12か所)

- ◆ 小児外科の手術や搬送実績をモニタリングするため、州病院および保健センターが作成する小児外科患者統計データを収集した。

1-2-2 退院後患者のフォローアップ (実施2回/目標2回)

- ◆ 州病院からNPHに搬送された外科患者のフォローアップを外科職員が行い、手術後の状況を確認した。右ひざが曲がらない先天性の病気のため、歩行が困難な患者であったが、治療後は杖を用いて立つて歩くことができるまでに回復し、生活の質の向上につながった。(12月3日)
- ◆ 犬に頭部をかまれ州病院で治療を受けた患者を外科職員が訪問し、傷口が感染せずに順調に回復していることを確認するとともに、今後のケアの方向性や注意事項について説明した。(1月24日)

1-2-3 患者満足度調査 (実施51名/目標50~60人)

- ◆ 2022年10月から2023年1月までの間、51名の小児外科患者の付き添い家族を対象とする満足度調査を実施した。

1-2-4 本邦・第三国医療機関視察研修 (実施0回/目標1回)

- ◆ 本邦医療機関のオンライン視察を計画していたが、日本での新型コロナウイルス感染症第7波及び第8波の発生により、医療現場の対応が困難となり、中止となった。

1-2-5 プロジェクト運営委員会による指導・モニタリング

(運営委員会年2回、作業部会年3回) (実施5回/目標5回)

- ◆ プロジェクトの進捗管理や運営への助言を行う運営委員会を下記の通り開催した。
 - ・ 病院サービス改善作業部会 : 5月20日と12月26日 (2回)
 - ・ 搬送体制改善作業部会 : 1月20日 (1回)
 - ・ プロジェクト運営委員会 : 7月15日と1月27日 (2回)

1-3. 病院機能の強化、院内環境の改善

1-3-1 医療機器および手術器具の拡充 (1年次) : 実施済

1-3-2 外科棟の移転建設

- ◆ 事業2年次に竣工した新外科病棟に関し、活用方法の周知を図るとともに、外科職員による定期大掃除、病棟の安全点検などの維持管理に関するフォローアップを行った。2022年12月に瑕疵担保期間中の修理を行い、患者の安全性の向上と入院環境の改善を図った。

1-4. NPH外科職員のリーダーシップ強化

1-4-1 国内学会への出席

- ◆ 11月19日に開催された第26回麻酔学会へのNPH職員29名(医師5名、看護師24名)の参加を支援した。

2. クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動

2-2. 保健センター職員等への知識普及

2-2-1 保健センターにおける小児外科研修 (実施14回/目標12回)

- ◆ 7月から12月にかけて、州内にある合計12か所の保健センター(新

	<p>規に設置された保健センター2 か所を含む)において、「小児外科疾患の種類や症状」「小児患者のスクリーニングツール」「搬送ガイドライン、搬送スリップの使い方」のテーマで開催し、149名の保健センター職員等が参加した。</p> <p>2-2-2 看護学会(小児看護分科会)への参加(1年次に実施済み)</p> <p>2-3. シンポジウム・啓発教材による知識普及</p> <p>2-3-1 シンポジウムの開催(1年次):実施済。</p> <p>2-3-2 小児外科の啓発教材の作成・配布(各保健機関職員および保健ボランティア等向け)(1年次と2年次):実施済。</p> <p>3. 住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動</p> <p>3-1. 入院患者への情報提供</p> <p>3-1-1 患者・家族への保健教育(実施29回/目標24回、うち自己資金3回、州病院独自の実施2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 2月から10月にかけて、「新外科病棟での衛生管理」「COVID-19感染予防ガイドライン3Do's and 3Don'ts」「飲み物に含まれる糖分」「デング熱の症状、治療方法」「内反足の症状と治療方法」「処方箋医療品」「へびに咬まれたときの処置」「下痢の予防」「病棟清掃に関する注意喚起」などのテーマで実施され、621名の患者及びその家族が参加した。 <p>3-2. コミュニティへの情報提供</p> <p>3-2-1 住民への普及・啓発(実施3回/目標2~3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 州病院および保健センター職員がスピーカーとなり、ラジオによる普及・啓発活動を下記の通り行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・「州病院新外科病棟を拠点とする小児外科診療」(5月13日) ・「NPH職員による小児外科手術ミッションの開催情報」(11月16日) ・「クラチェ州病院における小児外科診療」(1月31日) 																
(3) 達成された成果	<p>成果1. クラチェ州病院において、外科の診断と治療が適切に行われる</p> <p>1-1 1)小児外科入院患者数、手術件数〔確認方法:病院記録〕</p> <p><指標>ベースライン(2017)入院患者数 436人、手術件数 275件</p> <table border="0"> <tr> <td>1年次実績</td> <td>各466人、274件</td> </tr> <tr> <td>2年次実績</td> <td>各374人、234件</td> </tr> <tr> <td>3年次目標</td> <td>各716人、386件</td> </tr> <tr> <td>3年次実績</td> <td>各441人、286件【未達成】</td> </tr> </table> <p>2)若手外科医がメインで執刀した小児患者の手術割合〔確認方法:病院記録〕</p> <p><指標>ベースライン(2018)手術割合11.4%(314件中36件)</p> <table border="0"> <tr> <td>1年次実績</td> <td>13.5%(274件中37件)</td> </tr> <tr> <td>2年次実績</td> <td>21.8%(234件中51件)</td> </tr> <tr> <td>3年次目標</td> <td>21.1%</td> </tr> <tr> <td>3年次実績</td> <td>23.4%(286件中67件)【達成】</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新型コロナウイルスの影響で、2年次は、外科患者のみならず州病院全体の患者数が減った。3年次において、外科の入院患者数と手術件数は目標値には達成しなかったが、2年次と比べ増加傾向にある。 ◆ 事業による研修実施や診療環境の改善によって、州病院の若手外科医の技能が向上し、執刀医を担当できる症例が増えてきた。鼠経ヘル 	1年次実績	各466人、274件	2年次実績	各374人、234件	3年次目標	各716人、386件	3年次実績	各441人、286件【未達成】	1年次実績	13.5%(274件中37件)	2年次実績	21.8%(234件中51件)	3年次目標	21.1%	3年次実績	23.4%(286件中67件)【達成】
1年次実績	各466人、274件																
2年次実績	各374人、234件																
3年次目標	各716人、386件																
3年次実績	各441人、286件【未達成】																
1年次実績	13.5%(274件中37件)																
2年次実績	21.8%(234件中51件)																
3年次目標	21.1%																
3年次実績	23.4%(286件中67件)【達成】																

ニアや虫垂炎といった腹部手術に加え、交通事故や転倒による外傷、骨折治療といった手術を扱えるようになり、若手外科医に専門的技術の向上が認められた。

1-2 チーム医療の実践〔確認方法：モニタリング〕

1) 外科職員間の申し送り実践度

<指標>ベースライン(2017) 0回/週

1 年次実績 1回/週

2 年次実績 0回/週

3 年次目標 6回/週

3 年次実績 対面1回/週、およびテレグラム等で日常的に実践

【一部達成】

- ◆ コロナウィルス流行下で州病院の院内感染予防方針により、対面形式での職員間の申し送りは中止となっていたが、今期は、週に1回、全外科職員が集まって患者の入退院、重傷患者の状況、物品の管理方法など重要事項に関する申し送りを行うようになった。また日常業務のなかで、職員ルームの掲示板、電話やテレグラムといった通信ツール、患者カルテが申し送りのために活用されている。
- ◆ 院内研修などを通じて、職員間で共有すべき内容を自分たちで考え、議論することの重要性が認識され、申し送りの内容が充実したことは大きな進展である。以前には共有されていなかった患者のバイタルサイン、傷、食事などの患者の体調や回復状況、投薬、点滴といった詳細な情報が申し送りで伝えられるようになり、州病院における医療の質が確実に向上しつつある。

2) 外科患者カルテ記載状況

<指標>ベースライン(2017) 記入漏れ多し

1 年次実績 記入はされているが、記述の正確さが求められる

3 年次目標 日常的にカルテに記載すべき事項を十分に網羅

3 年次実績 記載すべき内容は網羅されており、ドレーン排液量や尿量などの情報についても新たに記載されるようになった【達成】

- ◆ 医師カルテ欄への観察結果に改善がみられた。患者のバイタルサインと点滴内容などの日々の経過と記録以外にも、以前には記載がなかったドレーン排液量と尿量が記載された。

1-3 患者満足度

〔確認方法：質問票を用いたサンプリング調査 50人～60人〕

<指標>クラチェ州病院の外科診療に関する患者満足度におけるネガティブな回答の割合

ベースライン(2017)「手術前に治療の詳しい説明を受けたか」等の24の質問項目において、ネガティブな回答の割合が29%以下

1 年次実績 4%

2 年次実績 1%

3 年次目標 0%

3 年次実績 8%【未達成】

- ◆ 今期は目標値に達することができなかったがベースラインの29%からは大きく改善された。過去よりもネガティブな回答の割合が上がった質問項目は「治療中に患者や家族の緊張をほぐすような対応があったか」だったことから患者に対する精神的なサポート

が必要とされていることがわかった。ネガティブな回答の割合が順調に減ってきている項目は、「病棟内が清潔だったか」や「手術前に詳しい説明を受けたか」などであり、病院の環境やサービスに関する満足度は良いことが認められた。

1-4 乳児の手術件数〔確認方法：病院記録〕

<指標>より難易度の高い新生児・乳児(1歳未満児)の手術件数

主な症例：鼠経ヘルニア、膿瘍、臍肉芽腫など

ベースライン(2017年) 29件

1年次実績 38件

2年次実績 33件

3年次目標 40件

3年次実績 46件【達成】

- ◆ 州病院での全手術件数に対する乳児の手術件数の割合は、1年次(38件)に13.9%、2年次(33件)に14.1%、3年次(46件)に16.0%と、着実に増加しており、新生児を含む乳児の手術に関する対応能力の向上を確認することができた。

1-5 NPH外科の教育的リーダーシップの度合い〔確認方法：実績調査〕

<指標>NPH外科・手術部で受け入れた研修生数

(医学生インターン、他病院職員、外国研修生等)

ベースライン(2017) 70人

1年次実績 112人

2年次実績 20人

3年次目標 91人

3年次実績 118人【達成】

- ◆ 2年次は、新型コロナウイルスによる規制に伴い研修生の受け入れが制限され20人だったが、3年次は118人の研修生を受け入れ目標値を上回った。

成果2. クラチェ州において患者搬送体制が強化される

2-1 クラチェ州病院への搬送〔確認方法：実績調査〕

<指標>他病院、保健センター、保健ポストからの小児外科患者受け入れ件数

ベースライン(2017年) 41件

1年次実績 11件

2年次実績 36件

3年次目標 67件

3年次実績 29件【未達成】

- ◆ 州病院の小児外科患者受け入れ件数に関しては、想定していたデータ採集手段と搬送実態に乖離があり、必要とされるデータを正確に把握することが困難であった。州病院では、救急車で搬送される患者と、初診を受けた保健センターから発行される搬送スリップ(紹介状)を持って来院する患者を「搬送件数」として記録している。しかしながら、保健センターがスリップの発行を怠る例、患者がスリップを紛失してしまうといった例が多く、州病院の「搬送受け入れ件数」として記録されていない。職員からの聞き取りや観察の結果を総合すると、実績値を超える可能性が高いが、ここでは確実に確認できる最低限の数値を根拠とした。

2-2 保健センター（HC）からの搬送〔確認方法：実績調査〕

＜指標＞選定した保健センターから上位医療機関への小児患者送り出し件数（1保健センター当たり）

ベースライン（2017年）	13.8件（55件/4か所）
1年次実績	21.3件（170件/8か所）
2年次実績	7.0件（70件/10か所）
3年次目標	29.6件（355件/12か所）
3年次実績	10.8件（130件/12か所）【未達成】

- ◆ 保健センターから上位医療機関への搬送件数の実績は目標値を下回った。1つ目の理由として、道路事情が改善した地域では、患者は居住地近くの保健センターを利用することなく直接上位病院での受診を選ぶ傾向があり、保健センターを経由しないため、この指標にはカウントされていない。2つ目の理由としては、医療機関の記録管理の問題として、保健センターではデータの重要性が未だ十分に理解されておらず、患者の記録を正確に残していないことや搬送スリップを作成しないという状況がある。しかし職員は、活動「2-2-1 保健センターにおける小児外科研修」で得た知識をもとに小児外科患者を発見した際は、テレグラムや電話などコミュニケーションツールを使って上位医療機関へ情報共有を行い、患者を紹介しているなど、口頭でのやり取りが多いことが聞き取りでわかった。2-1と同じく、選定した保健センターから上位医療機関へ搬送されている件数は実績よりも多いと見込まれるものの、ここでは搬送スリップにて確実に確認できる最低限の数値を記載した。

2-3 保健センター職員の小児外科に関する知識〔確認方法：実績調査〕

＜指標＞選定した保健センターにおける小児外科研修に参加した職員の人数（1保健センターあたり少なくとも職員5人が受講）

1年次実績	69人（8か所）
2年次実績	76人（10か所）
3年次目標	60人（12か所）
3年次実績	116人（12か所）【達成】

- ◆ 3年次は事業の対象とする保健センター2か所を追加し、12か所となった。合計14回の研修を行い、1か所あたり9.6人が小児外科に関する知識を得た。

成果3. 地域住民が小児外科に関する正しい情報に接し、適時に医療機関を受診する

3-1 入院患者が情報を受け取る機会〔確認方法：実績調査〕

＜指標＞クラチェ州病院外科で行われる患者教育に参加した小児外科入院患者およびその付き添い家族の人数

ベースライン（2018）	75人（25人/回×年3回）
1年次実績	年間342人
2年次実績	年間921人
3年次目標	年間493人
3年次実績	年間722人【達成】

※内訳 N連での実施621人、自己資金による実施58人、州病院独自の実施43人）

- ◆ 本事業の開始前は州病院において、入院患者に対する情報提供や啓発活動は全く行われていなかった。事業開始以来、外科にて患者

	<p>教育を実施し、回数を重ねるたびに、外科職員が自信をもって患者に説明できるようになり、患者教育の機会の増加を求める声も職員自身から上がるようになった。2023年1月からは、外科職員のイニシアティブによって患者教育が開催されるようになった。</p> <p>3-2 コミュニティへの情報提供〔確認方法：実績調査〕</p> <p><指標>番組放送の視聴人数〔確認方法：ラジオ局ウェブサイト上のライブ配信映像への平均アクセス数〕</p> <p>ベースライン（2019年） 818人（1回実施）</p> <p>2年次実績 1,200人（1回実施）</p> <p>3年次目標 1,200人（3回実施）</p> <p><u>3年次実績 7,729人（3回実施）【達成】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小児外科疾患の症状や治療に関する情報を広範囲に、かつ持続的に住民に提供するため、ラジオ、SNS・動画サイトを活用した。ラジオ局によるライブ配信によって、州病院から遠く離れた土地に住む住民に対して小児外科疾患の症状や治療に関する情報を提供できるようになった。 ◆ 番組のFacebookやYoutubeによるアーカイブ配信によって、放送を聞き逃した人々に対しても継続的な情報提供が可能となった。州病院や保健センター職員も出演し、この活動に関心を持ち啓発活動に積極的に取り組むようになってきた。
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業はカンボジア保健省との合意の下、クラチェ州保健局および州病院との緊密な連携により実施されている。特に、州保健局長および院長は当事業への理解度が高く、当事業によって得た学びや成果を院内に広く導入・定着させようとする姿勢が認められる。</p> <p>また活動期間中、NPHのカンボジア人医師・看護師が、州病院職員の育成にあたってきた結果、州病院の外科医6名、麻酔看護師6名が、小児外科の疾患に対応できるようになった。これら外科医、看護師が中心となり、若手や新人への教育を担うことで、日々の診療およびOJTが安定的に行われるようになったことは、同病院の小児外科に関する質の維持、向上が継続されるうえで欠くべからざる要件である。</p> <p>1年次に供与した手術器材、2年次に竣工した新病棟は、州病院が維持管理の責任を持つことを明確にした形で譲渡した。譲渡後1年以上経過した現在も、電気・水道費、清掃員の増員、医療消耗品などの費用は州病院が負担し、定期的なモニタリングなどの維持管理の体制ができています。維持管理に関する外科職員の理解も増え、病棟の清掃の仕事を清掃員にだけたよるのではなく、州病院では初の事例となる、医師や看護師といった職員による定期掃除が定着した。</p> <p>本事業で位置づけた小児外科普及リーダー（保健局、保健行政区、州病院職員から構成）たちは小児外科の普及を担う責任感を理解し、彼らによる対象保健センター12か所への研修実施を通して、保健センター職員のなかで、小児外科の主要な症状の理解、適切な患者搬送のための上位医療機関との連携強化の必要性に関する理解が進んだ。今後、この12か所の保健センターが、地域リーダーとなり、他の保健センターへの医療知識や体制の普及を担っていくことが期待される。</p>

<p>3 その他</p>	
<p>(1) 固定資産譲渡先</p>	<p>特になし</p>

(2) 特記事項	特になし
----------	------

完了報告書記載日：2023年04月28日

団体代表者名：理事長 飯島 延浩

団体としての最終版であることを確認済み（要チェック）

【添付書類】

- ① 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ② 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ③ 人件費実績表（様式4-c）
- ④ 一般管理費等 支出集計表（様式4-d）
- ⑤ 事業内容、事業の成果に関する写真（様式4-e）
- ⑥ 外部調査報告書

事業完了時の写真
 (クラチェ州における小児外科診療体制強化事業)
 (公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR))



1-1-1 NPH 職員の指導による研修
 OJT、座学、オンラインなどの形式で開催



1-1-2 院内研修
 小児外科の症例や治療法などについて勉強・意見交換



1-1-5 国内医療施設の視察研修
 小児科、外科を中心にチーム医療のあり方を視察



1-1-5 国内医療施設の視察研修
 学んだことから州病院の日常業務の見直しについて意見交換



1-2-2 退院後患者のフォローアップ
 州病院外科医と外科看護師長が患者の自宅を訪問



1-2-3 患者満足度調査
 小児外科患者の保護者にインタビュー

事業完了時の写真
 (クラチェ州における小児外科診療体制強化事業)
 (公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR))



1-2-5 プロジェクト運営委員会による指導モニタリング



1-3-2 外科棟の移転建設 (維持管理のフォローアップ)
 病棟や物品の安全点検



1-3-2 外科棟の移転建設 (維持管理のフォローアップ)
 職員による定期掃除の開催



2-2-1 保健センターにおける小児外科研修
 普及リーダーたちによる講義および演習



3-1-1 患者・家族への保健教育
 外科入院患者に対して保健教育の実施



3-2-1 住民への普及・啓発
 ラジオを通して小児外科疾患や治療法について啓発